奈良市埋蔵文化財調査センター紀要

1990

奈良市教育委員会

平城京の井戸とその祭祀

篠　原　豊　一

Ⅰ　はじめに

日本の古代の都である平城京がおかれた奈良市では近年の都市再開発事業による大規模開発や建築物の高層化による地下利用が進み、地中にある埋蔵文化財が破壊されようとしている。こうした文化財を開発から守るため、多くの緊急発掘調査が実施されてきた。このような発掘調査によって古代の平城京が次々と明らかにされており、膨大な古代の人々の生活資料が発見されている。これらの検出された遺構や出土した遺物の中には、長屋王邸出土木簡の様な日本の古代史を書き替えるような貴重な発見も数多くある。平城京は平城宮を中心に計画的に作られた都であるため検出される遺構は道路、塀、溝などの条坊遺構や、建物、井戸、土坑など生活施設がある。平城京は古代律令国家の首都として機能するために、多くの官衙、寺院、市場等の施設を造り、それを運用するために多くの官人が集められた。こういった人々の家族を含めこの都には約10万[1)]人の人口があったと言われている。人間が生活するうえで衣、食、住は欠かせないものである。そのため、律令政府はこれらの人々が生活するためには多くの宅地を提供し、その居住地を強制的に割当てた。そのためには都の町造りは、国の威信を賭けて計画的に行われた。官人たちに提供される宅地はその官位によってその場所、広さに大きな違いがあった。貴族は政治、行政の中心である平城宮の周辺に、一町（約4500坪）以上という広大な宅地が与えられていたが、その反対に下級官人たちに平城京の八条、九条の遠隔地に16分の１町、32分の１町、64分の１町という宅地であたえられていた。こうした宅地内にその規模、豪華さには違いがあるが、敷地中心に住居を建て、井戸を掘り、周囲に塀を廻らしていたことが発掘調査でわかっている。また、人々の生活に欠かすことのできない食糧品や生活用品を供給するために東市・西市などの市場を設け都市の経済を支えていた。こうした物品は数多くの遺物として出土している。遺物には日常生活で食器や貯蔵容器として使用した須恵器・土師器、工具の刀子・鉄斧・釘、装飾品の檜扇・帯金具・櫛・下駄、遊戯具のこま・碁石、祭祀具の人形・斎串・土馬・人面墨書土器・素文鏡・銅鈴、通貨の和同開珎・神功開寶・萬年通寶、文字資料の木簡・漆紙文書・墨書土器など奈良時代の都城生活を知るうえで貴重な多種多様のものがある。こうして人々が生活する上で特に貴重な物に水がある。水は飲料水、生活用水として欠かすことのできないものである。平城京は奈良盆地の北端に立地しており右京には秋篠川、左京には佐保川が南流しており自然河川による水の供給も都城の機能に

重要なものであったと考えられる。こうして古代人は水を河川の自然の水を利用しながら、一方で人工的な井戸、池などを構築して、生活に必要な水量を得るために最大の労力を費やしたのだろう。これまでの平城京内の発掘調査で井戸が約300基以上検出されているが、そのうち奈良時代の井戸は約260基ほどある。町田章氏は平城京の発掘調査例から原則として一宅地に一基の井戸を設けている[2)]と指摘されている。宅地内の井戸からは古代の人々が生活に用いた瓦、土器、金属製品、木製品、繊維製品、木簡が出土し、井戸の枠には床、扉、桁など建築部材や盾などの武具が転用されていることもある。これらの遺物についてはいろいろな方面から研究が成されているが、このような遺物の中でその利用方法のよくわからないものも多くある。それらの遺物は祭祀遺物として考えられており、その研究も数多く発表されている。特に平城京の遺跡では道路側溝、運河から大量に出土する。これにの祭祀遺物については金子裕之氏[15)]の研究により律令国家に於ける大抜の遺物であると考察されている。小稿では平城京で検出された井戸枠の型式を分類し、井戸内から出土する祭祀遺物をもとに、井戸の掘削、竣工、廃棄に伴う井戸祭祀を復元しようとするものである。

Ⅱ　平城京の井戸

1　井戸の研究史

日本の井戸の研究は日色志郎氏[3)]、山本博氏[4)]、宇野隆夫氏[5)]らの研究によって弥生時代から近世までの井戸が体系的に整理され、井戸用語の定義、井戸枠の型式分類が行なわれている。この井戸研究から、日本の井戸は弥生時代から古墳時代は素掘り井戸、古代は木組井戸、中近世は石組井戸と大きく変遷することがわかっている。

また、横田賢二郎氏[6)]によると太宰府の井戸、小都隆氏[7)]による草戸千軒の井戸、山本輝雄氏[8)]による長岡京の井戸などの各地遺跡における井戸の分類と宅地内の井戸の在り方について研究が進んでいる。

平城京の井戸は黒崎直氏[9)]によって考察されている。平城宮の井戸19基を内裏の井戸、官衙の井戸、その他の井戸の３種類にわけ、平城宮の井戸に見られる井戸の規模の違いが、井戸を伴う官衙の職務と深くかかわっていると考えた。さらに平城京内で検出した井籠組井戸の分布と大きさに注目し、平城宮にその分布が集中し、それぞれの場所によって違いがみられることや、宮の井籠組井戸の規模が京内と比べて格段に大きいことから、井戸を用いた役所や人々の位が井戸に反映されているとした。また、町田章氏[10)]は平城京内の井戸について、その宅地の大きさから、４分の１町以下の宅地では宅地の入口近くの主屋に近い所に掘り、井戸屋形はみられない。半町以上の邸宅では内郭の主殿の脇ないし前側面に井戸を掘り、井戸屋形をかけることが多いとし、宅地内の井戸のありかたについて論じている。

2　井戸の名称

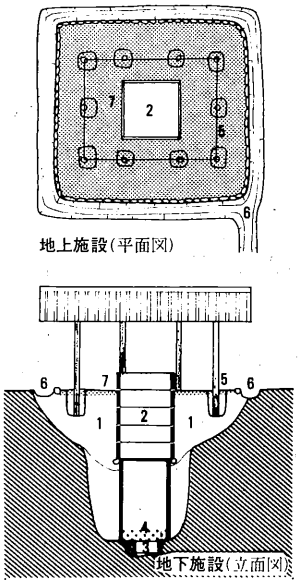
井戸の各名称についてはここでは第１図のように呼称する。なお、平城京内の発掘調査報告ではこれまで地下の井壁を井戸枠と総称しているため、本稿ではこの名称を使用する。井戸は地下施設と地上施設に大きくわかれる。

地下施設　井戸掘形、井戸枠に大きく区分される。

井戸掘形（１）　井戸を造る為に地下の水脈まで掘削した坑の総称で、平面形は方形、隅丸方形、円形、楕円形のものがある。深さが２ｍ以上のものは掘形を２段に掘削する場合が多くみられる。掘形の大きさはその地形、地盤に大きく左右され、軟弱地盤で水脈までの深さがあるほど大きくなる傾向がある。なお、掘形の地盤が強固な場合井戸枠が無い素掘りの井戸が造られることもある。

井戸枠（２）　平城京の井戸は木組の井戸枠をもつものがほとんどである。井戸枠を掘形の底に水平に固定させるため、自然石・塼などを井戸枠の下に敷き土台とする井戸もある。山本、小都、横田、宇野の各氏の分類[11)]ではこの施設（井戸枠）を大きく３つの部分にわけている。地上にでる部分を井桁、地下にある井壁の崩壊を防ぐ部分を井筒・井戸側、水を溜める為に底に設ける施設をまなこ・水溜めとしている。平城京内でこれまでに検出された井戸は井桁と呼ばれる上部施設を検出した例が無いため、今回はこの名称を用いない。井壁の崩壊を防ぐ部分については平城京の報告書では井戸枠として報告されており、本稿でもこれを使用する。水を溜める為に底に設ける施設については、検出された井戸が現在でも水が湧き出るものがほとんどで、奈良時代も枠全体で水を湛えていたと想定できることや、水溜めとされるものは井戸底の一回り小さい掘形の中に据えられているため、ここではこの施設を水脈低下による水源確保のための二次的な湧水施設（３）と考えたい。これを井戸底の水溜めと定義づけるには疑問がある。また、井戸枠の底に礫、木炭、塼板を編んだ網代などを井戸枠の底に敷き詰め、湧き水を濾過する施設（４）を持つ井戸もある。この湧水施設と濾過施設は井戸枠に付随する施設と考える。

地上施設　井戸は人々が生活するための洗い場として使用されるため、井戸の周囲は舗装され、排水溝、井戸屋形が設けられていた。これまでの平城京内の井戸発掘調査ではそのほとんどが後世の水田耕作や攪乱坑などによって既に壊されてしまっており、ほとんど検出されていないが、いずれの井戸にもこ



第１図　井戸の名称

れらの施設があったことが想定できよう。

井戸屋形（5） 井戸枠を覆うように掘立柱建物が設けられることもある。平城京内で2例、平城宮内で7例ある。釣瓶や壺形土器に蔓の吊手を付けた水を汲む道具も井戸から出土しており、建物の梁に滑車を付け水を汲みあげた可能性も考えられている。

排水溝（6） 井戸の周囲を一辺3m前後の方形に溝がめぐり、宅地内の幹線水路へと排水する溝である。平城京内で3例、平城宮内で5例ある。

洗い場（7） 井戸枠と井戸排水溝間を玉石、小礫、瓦片などによって舗装している井戸がある。この場所は洗い場として使用し、汚水は周囲の溝に排水される。洗い場を舗装することによって水の使用による床面の崩壊を防ぎ、汚水の逆流による水源の汚染防止ための重要な施設であったと考えられよう。平城京内で3例、平城宮内で5例ある。

3　井戸枠の分類

平城京の井戸については黒崎、町田の両氏によって分類されている。

黒崎直氏[12]の平城宮の井戸のなかでの井戸枠の分類は井籠組、刳り抜き井筒、縦板組の円形井戸枠、方形縦板組井戸枠、曲物井戸にわけている。

町田章氏[13]は平城京の井戸を3種に大別している。井戸枠の側板の組方によって、1　丸太刳抜井戸枠　a一木、b二つ割、　2　縦板組井戸枠　a丸形、b四角形、　3　横板組井戸枠　a丸形、b四角形に分類している。

本稿では井戸枠を平城京の発掘調査報告書を基本として分類した。井戸は井戸枠の有無によって素掘り井戸、木組井戸に分れる。井戸枠が抜き取られた井戸は抜き取り井戸と呼ぶことにする。

素掘り井戸　土留めの井壁を設けない井戸で平城京内でこれまでに4例検出されている。いずれも掘形の大きさが1.7m以下の円形か方形の井戸である。検出例が少ないことから井戸の試掘坑か、仮設の井戸の可能性が高いと考えられる。

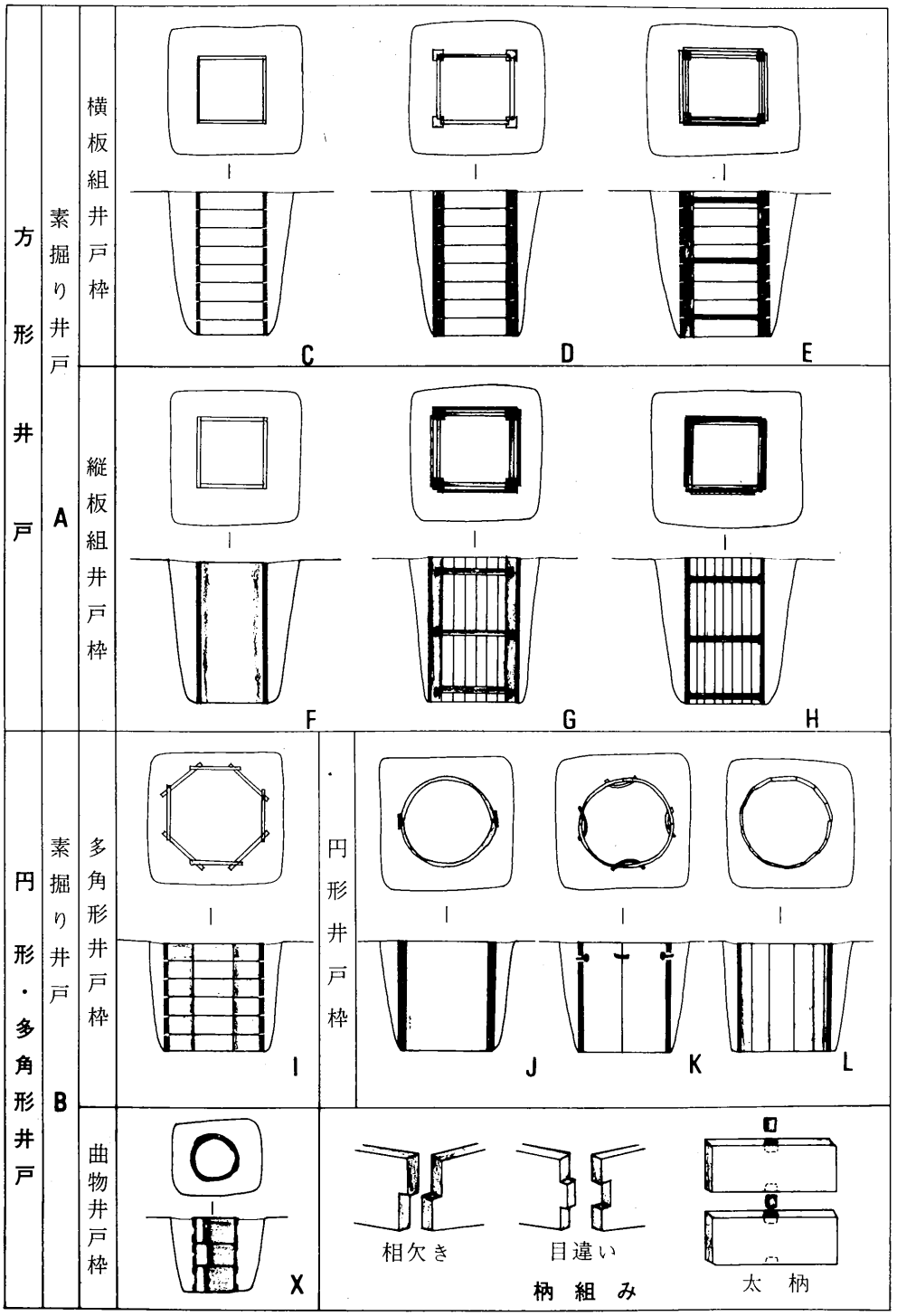
A　円形素掘り井戸

B　方形素掘り井戸

抜き取り井戸　井戸の廃棄もしくは造り替えのために井戸枠材を抜き取った井戸をいう。本稿では分類の関係上、全ての井戸枠が抜き取られていたものをいう。

木組井戸　平城京の井戸のほとんどは木組の井戸枠をもつ井戸である。木組を持つ井戸は井戸枠の平面形から方形、円形、多角形に分れ、その組方よりさらに刳り抜き井戸、横板組井戸、縦板組井戸、曲物組井戸に細分される。井壁に薄板を使用するときは土圧による井壁の変形を防ぐため角材（柱、横桟）による枠どめで井壁を補強する。この枠どめを隅柱横桟どめ、隅柱どめ、横桟どめと呼ぶ。これら組合わせて枠型の名称とする。

枠型名称＝平面形＋側板組＋枠どめ


方形井戸
素掘り井戸
A
横板組井戸枠
C
D
E
縦板組井戸枠
F
G
H
円形・多角形井戸
素掘り井戸
B
多角形井戸枠
I
円形井戸枠
J
K
L
曲物井戸枠
X
相欠き
目違い
枘組み
太枘

第2図　井戸枠の型式

なお、井戸枠はこれらの枠型を上下に組合わせたものが多く見られ、井戸枠の名称はこれらの枠型を下段から上段へ説明するのを基本とする。また、板及び角材組合わせる仕口は目違い枘、相欠き枘、太枘、釘どめ、楔、縄が用いられている。井戸枠を安定させるため井戸底に自然石、枘、木組の土台を設けたり、隅柱の端部を尖らせて底に打ち込んだりして固定されている。

C．方形横板組　通称井籠組と呼ばれる井戸で、横板の両端を相欠き枘、目違い枘で井桁に組合わせたものを積み上げた井戸枠。釘留めした例もある。横板の上下は横板に1～2か所の太枘で結合する。平城京内でこれまでに44基検出されている。

D．方形横板組隅柱どめ　枠の四隅に柱を立て、柱の内面に縦方向の溝を2条彫り、その溝に横板を落とし込んだ井戸枠。柱を固定するため井戸底に角材を組んだ方形の土台をもつものもある。平城京内でこれまでに8基検出されている。

E．方形横板組隅柱横桟どめ　枠の四隅に柱を立て、柱2～3段の横桟で枠組を造り横板を支持する井戸枠。平城京でこれまでに9基検出されている。

F．方形縦板組　幅1m前後、厚さ5cm、長さ2m前後の厚板を一辺一枚を縦並べ組合わせた井戸枠。内面を横桟で補強した例もある。平城京でこれまでに5基検出されている。

G．方形縦板組隅柱横桟どめ　枠の四隅に柱を立て、2～3段の横桟で枠組を造り、薄い縦板で支持する井戸。平城京はこれまでに48基検出されており、一番多い枠型である。

H．方形縦板組横桟どめ　重ね合せた薄い縦板を井壁とし、3～4段以上の横桟で組合わせた井戸。平城京でこれまでに35基検出されている。この型の井戸は奈良時代以降の中世の井戸によく見られる枠型である。

I．八角形横板組　八角形に並べた塼の上に厚さ6cmの横板を八角形に組上げた井戸枠。平城京左京四条二坊一坪の井戸SE2600の1基がある。

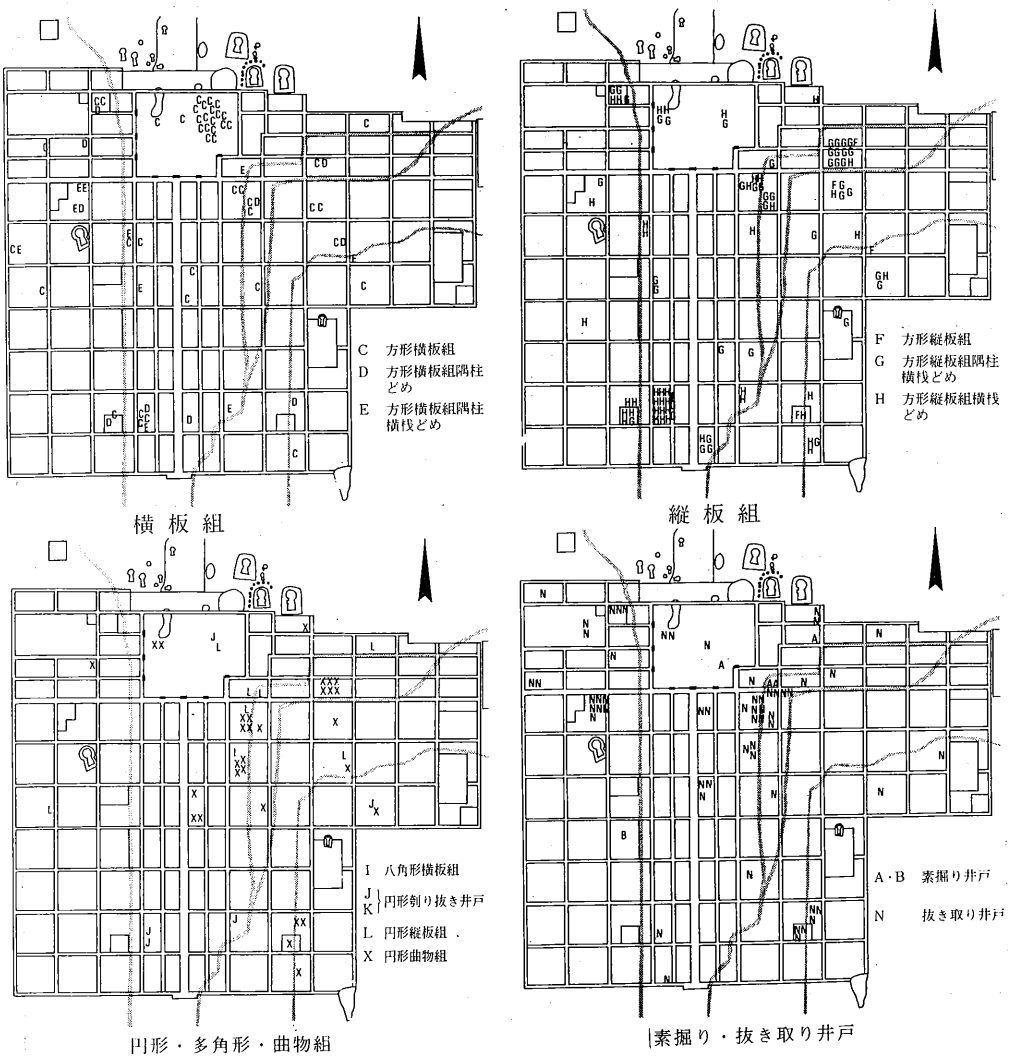
J・K．円形刳り抜き井戸　丸木を2分の1割、3分の1割、4分の1割し、内側を刳り抜いた後、縄で縛ばるか、つなぎ枘で組合わせて井戸枠とする。平城京でこれまでに5基検出されている。このうち一木刳り抜きとされているものが1例ある。

L．円形縦板組　湾曲させた縦板を12から32枚円筒形に接合して井戸枠とする。側縁は2～3段の太枘で結合する。平城京でこれまでに6基検出されている。

X．円形曲物組　円形もしくは楕円形の曲物を2～3段積み上げた井戸枠。径30～45cmの曲物容器の底板を抜いたものと径60cmの曲物を用いるものがある。曲物組は下段の井戸底に据えられていることが多く、小型の曲物は湧水施設として新たに据えられた可能性が高い。下段の井戸枠と湧水施設との判断がつかないものがほとんどであるため本稿ではあえて区別しない。

以上のような井戸枠型の検出数を表にしたのが表1である。この表は奈良時代から平安

時代初頭までの平城京で検出した井戸[19]を型式別、年代別に分類したものである。この表を見ると井戸の井戸枠が残る井戸の約80%が方形井戸で、そのうちの6割が縦板組のものであることがわかる。円形、多角形井戸の検出数は総数の約7%しかなく特殊な井戸である。また、検出した井戸の約4分の1は抜き取られている。素掘り井戸は奈良時代の前半の集中しており、曲物井戸は奈良時代の末に多く見られる。横板組、円形縦板組み井戸は、転用材が少なく、厚板を使用することが多いのに対して、縦板組井戸の木組は転用材がほとんどである。各井戸の分布を調べたのが第3図である。ほとんどの型式が平城京内にまんべんなく分布していることがわかる。一見集中しているように見えるところは発掘調査の集中する地域と一致している。これまでの平城京の井戸研究では平城宮の井戸がその規模、



第3図 平城京の井戸分布

豪華さにおいて群を抜いていることが指摘されている。平城京右京八条一坊十三坪の報告書では平城宮と平城京の井戸枠内法の規模について比較している[14]が横板組の1.5m以上の井戸枠は平城宮に集中し、平城京内では0.6〜1.2mまでの井戸が大部分を占める結果を得ているが、今回の結果もこれと同様である。律令国家では井戸枠の型式よりもその規模と豪華さに権力が現れたものと考えられよう。しかし、井戸の型式に一定のきまりが存在したことも否定できない。なぜならば上段の井戸枠は方形横板組井戸枠の占める率が高いことなどから、ある一定のきまりがあったのかもしれない。円形縦板組・多角形横板の井戸の検出例は極端に少なく、この井戸を築造するのは他の井戸枠に比べて相当な労力を必要とするものであることから、特殊な意味合いをもつ井戸の可能性も考えられよう。円筒形井壁は下段に使用されることが多く、円筒形は井壁に均等の土圧が架かるため強度が増す構造となり、長期間の使用に耐えることができるように下段に採用されたのかもしれない。円形縦板組井戸は地上で組み立てた後に、掘形内に据えたと考えられ、地上からの湧水量が多く掘形内での井戸枠の構築が困難となった場合に用いられた井戸枠の可能性も考えられよう。

次に、抜き取り井戸について考えてみる。抜き取り井戸は検出された井戸の約25%を占めている。抜き取り井戸の年代は出土遺物が少ないこともあって不明である場合が多い。井戸枠が残る井戸の年代は奈良時代後半以降のものが約80%を占める。このことは、奈良時代前半に作られた井戸が抜き取られたことを示すのか、また、平城京が完成し、人々が多く定住するようになったのが奈良時代後半以降であるのかが、今後の問題点となろう。

井戸枠				規模（上・下2段のものは2基とする）								年代（枠内の遺物年代、不明分は除く）				
平面形	側板組	枠型		0.6m以下	0.6〜0.9m	0.9〜1.2m	1.2〜1.5m	1.5〜1.8m	1.8〜2.1m	2.1m以上	計	奈良前半（平城宮Ⅰ・Ⅱ）	奈良中頃（平城宮Ⅲ）	奈良後半（平城宮Ⅳ・Ⅴ）	奈良末（平城宮Ⅵ）	奈良末〜平安初頭（平城Ⅶ）
素掘り 2.5%		A				1		2			4	2				
		B				1					1	1				
方形 77%	横板組 31%	C	宮			2	2	2	4	4	21	44	1	1	1	4
			京	1	8	5	3	1			24	3	1	2	2	1
		D			2	3					8		2		1	
		E		1	2	4	2				9	1	1	2		2
	縦板組 46%	F		1	3		1				5		2		1	1
		G		1	16	13	2				48	1	2	8	6	1
		H			19	15		1			35	3	3	13	7	1
多角形 0.5%	横板組	I						1			1					1
円形 6%	刳り抜き	J・K			2			1	1	1	5		1	1	2	1
	縦板組	L			2	4	1				6		1	1	1	3
曲物組 14%		X		19	1						26		1	2	6	1
計 100%(75%)				15%	36%	31%	7%	5%	3%	3%	計192	11%	15%	30%	28%	16%
[抜き取り井戸(25%)]					67%						100%			58%		

表1　平城京 井戸枠の内法と年代

Ⅲ　井戸出土の祭祀遺物

井戸から、瓦、土器、木製品、金属製品、木簡など多種多用な遺物が出土している。これらの遺物については各方面から研究されている。近年、水野正好氏、金子祐之氏などの一連の律令政治における祭祀遺物研究[15]によって祭祀の復元研究が積極的に進められ大いなる成果をあげている。これら祭祀遺物のうち土馬、人面墨書土器、人形、斎串についてはいろいろな研究成果が発表されている。特に金子氏は平城京内の溝、河川から出土する多量の人形、土馬、斎串、人面墨書土器、小型模造土器、銅鏡、銅鈴などが年に２度行われたとされる大拔の儀式に使用されたものであると考察した。

これらの研究成果のうち、井戸祭祀に関係するものに水野正好氏、兼康保明氏[16]、森貞次郎氏[17]の論文がある。また、黒崎直氏[18]は祭祀遺物の一つである斎串を取上げ、溝や井戸内から多く出土することや文献、民俗例から、斎串が祭場の範囲を示す結界として使用されたものであろうと考察した。こうして井戸から出土遺物に数々の研究がされている反面、井戸内から出土する祭祀遺物は井戸が埋められた後に他の遺物ともに廃棄されていることが多いため井戸祭祀の資料としては積極的に採用されていない。

本稿では井戸内から出土した祭祀遺物を取りあげて、その出土状況をまとめてみた。これまで平城京で検出された井戸と井戸祭祀遺物出土状況の概略を表にしたのが平城京井戸一覧表[19]である。この表をもとに井戸出土祭祀遺物の出土地点ごとにまとめてみると井戸掘形から出土したもの、井戸枠底の濾過施設から出土したもの、井戸枠内から出土したものに大別できる。平城京で検出した井戸のうち、特に祭祀遺物が良好に出土したものを例にとり考察を加えてみたい。

1　井戸掘形出土祭祀遺物

平城京内での出土例は３例ある。井戸掘形祭祀については兼康保明氏[20]によって考察されている。井戸掘形から出土した斎串を例にとり、その出土状態と現代の民俗例として残る井戸祭祀から古代の井戸開鑿の祭祀を復元している。まず掘形を掘り、その底に礫を敷き、さらに白灰色の砂を入れ井戸底を仕上る。その際に斎串を撒き祭祀を行った上で井戸枠を構築したと考えている。平城京では掘形から斎串が２例出土している。右京八条三坊六坪ＳＥ3260は方形横板組隅柱どめの井戸枠を持つ井戸で、井戸枠最下段の北側を除く三方の、枠板外側中央に細棒が側板に密着して出土した。この細棒の内、東側から出土したものは、偏平なヒノキの棒状品で左右の側辺に切り込みがはいっている。左京四条二坊一坪ＳＥ2600は八角形横板組の井戸枠を持つ、平城京内で１例しかない特異な井戸である。この井戸では井戸枠掘形から細棒が15点、側板に接するように出土している。最下部の側板八枚の内の１ヶ所を除く、全ての枠板外側中央付近に挿し立てられていた。細棒の一部は端部を圭頭状に作り、両側辺に切込みをいれた一種の串を小割にしたものを使用している。こ

の２例の報告書の中で金子裕之氏は、この串は井戸枠設置にあたり湧水と井戸枠の永遠であることを願う祭祀を行い、その折の串を祭祀終了後に小割にし、枠木外側の各辺におしこんだものであろうと考えている。

2　井戸枠濾過施設出土祭祀遺物

平城京内で、井戸の中に濾過施設を持つ例は19例ある。濾過施設には礫敷き13例、木炭敷き５例、檜の網代敷き１例がある。この濾過施設から祭祀遺物が出土した井戸が２基ある。右京八条三坊六坪ＳＥ3260内の井戸底には檜の網代が敷かれ、四隅に自然石を置き固定されていた。この網代を敷くことによって砂の浮遊による水の汚染を防止したと報告されている。この下層から斎串が一点出土している。左京二条二坊十四坪ＳＥ40は円形縦板組の井戸枠の底に木炭が厚さ15cm程敷きつめられていた。この炭層の中から萬年通寶１点とガラス玉１点が出土している。このように水をきれいに濾過する施設からも祭祀遺物が出土するということは、当時の人々が地下から清水が湧きでるようにと願いを込めて、濾過施設の中に埋めた祭祀遺物であろう。

3　井戸枠内出土祭祀遺物

これまでの井戸祭祀は主に井戸枠内から出土した遺物を中心に色々と考察されてきた反面、井戸枠内からの出土遺物は上層と下層で大きく時期差がある場合が多く、井戸祭祀を復元できないとされていた。また、各発掘調査現場による遺物の取上げ方違いによる資料格差もあり総合的な論議はできないとされていた。この稿ではあえてこれらの問題点を言及せず考察してみるが、これらの遺物がすなわち井戸祭祀に使用されたものと考えるものではない。平城京内に住む人々が日常生活の中で色々な物事について願いをかけた遺物が井戸枠内にすてられ、もしくは流され、井戸が埋められた後にできた地盤沈下による坑にも投棄されたものと考えている。また、井戸の水を汲み上げる際に誤って井戸内に落としてしまった遺物も含まれると考えられるが、飲料水として利用する井戸枠の中にものを投棄するとは考えられにくい。井戸を清潔に保つために井戸ざらいを頻繁に行ったとされている。このような状況から判断すると井戸枠内の遺物は井戸廃棄の際に行われた祭祀遺物の可能性が高いと考えられよう。このような考えをもとに井戸内の祭祀遺物についてその組合わせ方を見てみることにする。律令国家における大抜に使用され、流されたとされる祭祀遺物が平城京内及び周辺の河川、運河、道路側溝などから多く出土している。この祭祀遺物の組合わせと良く似た例が数多く見られるが、枠内出土の祭祀遺物にはヴァラエティがあり同じものが出土した組合せは無い。これらを大きくまとめると形代と呼ばれる模造品と斎串、銅銭、桃の種、これらを入れただろう曲物、人面墨書土器、須恵器壺Ｈ[21]が組合され出土した例が多くみられる。これらの祭祀遺物は抜の際の遺物を井戸に流したのか、また、井戸廃棄の際の祭祀に使用されたものであろうと考えられよう。これ以外の出

土例として人形や土器に人の名前を墨書きまたは線刻したものがある。そのうちの平城宮ＳＥ311Aの井戸からは人形と斎串が出土している。この人形には人の名前が書かれ両目と胸には木釘が打たれており、名前の人を呪たものであろうと考えられている。こうした人に関係した祭祀遺物も出土しており、井戸を使用していた人を想定させる祭祀遺物も出土している。このほかに土馬や馬の骨が出土した例がある。土馬は井戸、川など水に関係することから水霊信仰との係わりが強い遺物であるとされており、このことは井戸の水枯れがおこった際に何らかの祭祀を井戸周辺で行った可能性もあろう。また、建物の地鎮に使用された祭祀遺物と共通する遺物もおおく出土している。建物の祭祀の場合、現在でも地鎮祭、立柱式、上棟式、大殿祭、また、発掘調査から建物を建替える際にも地鎮している例がある。水野正好氏[15]は建物を建てる場合と同じように、井戸でも水鎮祭または鎮井祭と呼ぶような祭祀が行われていたと指摘している。平城京の井戸祭祀遺物の出土例から井戸掘形、井戸枠濾過施設、井戸枠内から祭祀遺物が出土しておりこれらの祭祀にあてはまる可能性がある。この考えをもとに大胆に井戸祭祀を復元すると、まず、坑を掘り水が湧きでることに祈り、井戸の底に濾過施設を設けた際には清水が湧くようにと祈り、井戸を廃棄する際には水神に感謝するために祈り、また、水枯れをおこした際にも祈ったと考えてみると古代人の井戸に対する深い信仰を見ることができるのではないだろうか。右京八条一坊十一・十三坪のＳＥ930からは土師器杯蓋に「急々」「々如律令」「□申／大将軍」が、左京二条五坊北郊のＳＥ03からは土師器杯に「天・今日・道」と墨書された土器が出土している。この文字は道教の呪符と考えられるもので、井戸の祭祀が道教の影響を大きく、うけていたとも考えられよう。

こうして井戸の祭祀遺物を出土地点から井戸祭祀を復元してみたが、いまのところ文献使用で裏づけられたものではなく、またその祭祀遺物の関係もわからなかったが、今後の研究課題としたい。

Ⅳ　終わりに

井戸内から出土した遺物は溝や道路側溝から出土した遺物に比べて、その２次的な移動・混入が少ないと考えられるため祭祀を復元する資料としては有効なものと考えるが、発掘調査の遺物の取上げ方によってその資料価値が大きく左右され価値が違ってくる。また、ガラス玉など細かな遺物も多く出土しており、井戸枠内の堆積土については、堆積土ごと取上げたのち水洗いが必要であろう。こうすることによって律令国家の宅地内祭祀及び、井戸祭祀が復元できるのではないかと考える。

本稿を書くにあって水野正好氏に助言を戴きここに感謝いたします。

註1）　岸俊男　『古代宮都の探究』　塙書房　1984年

註2）　町田章　「4　都市　E都城生活」『岩波講座　日本考古学4　集落と祭祀』
岩波書店　1988年

註3）　日色志郎　『日本上代井戸の研究』　1967年

註4）　山本博　『井戸の研究』　1970年

註5）　宇野隆夫　「井戸考」『史林　六五巻　5号』　1982年9月

註6）　横田覧二郎　「太宰府検出の井戸」『九州歴史資料館研究論集　三』　1977年

註7）　小都隆　「草戸千軒の井戸」『考古学研究　第26巻3号』　1979年

註8）　山本輝雄　「長岡京の井戸」『長岡京古文化論叢』　1989年

註9）　黒崎直　「平城京の井戸」『月刊文化財』　1976年4月

註10）　註2）文献

註11）　註4、5、6、7）文献

註12）　註9）文献

註13）　註2）文献

註14）　井上和人　「F井戸　小結－井戸の規模と構造について」『平城京右京八条一坊十三・十四坪発掘調査報告』　奈良国立文化財研究所編　1990年

註15）　水野正好　「等身の人形代」『京都考古　第21号』　1976年
「鎮井祭の周辺」『奈良大学紀要　第10号』　1980年
「福徳－その心の考古学」『奈良大学文化財学報　第1集』　1982年
「馬・馬・馬－その語りの考古学」『奈良大学文化財学報　第2集』　1983年
「招福・除災－その考古学」『国立歴史民俗博物館研究報告　第7集』1985年
金子裕之　「古代の木製模造品」『奈良国立文化財研究所研究論集Ⅵ』　1980年
「平城京と祭場」『国立歴史民俗博物館研究報告第7集』　1985年
「都城と祭祀」『古代を考える　沖の島と古代祭祀』吉川引文館 1988年
「律令期祭祀遺物集成」　1988年

註16）　兼康保明　「井戸における斉串使用の一例」『古代研究　19』1980年

註17）　森貞次郎　「弥生時代の遺物にあらわれた信仰の形態」『神道考古学講座　1』　1981年

註18）　黒崎直　「斎串考」『古代研究　10』　1977年

註19）　この一覧表は1990年12月までに刊行された発掘調査報告書及び研究文献をもとに作成した。未発表資料も多くあるため、これまで検出された平城京の井戸をすべて記載したものではない。遺構の番号、年代については一部に不明確なものもある。平城京としたものはことわりのない限り平城宮を含んだものである。

註20）　註16）文献

註21）　奈良美穂「須恵器壺Hの一考察」『奈良市埋蔵文化財調査センター紀要』　1985年

No	遺跡名	遺構名	地上施設	井戸掘形			井戸枠					文献
				規模 m	深さ m	祭祀遺物	枠型	内法 m	濾過施設	祭祀遺物	時期	
1	内裏　後宮東北部 国 78次	SE 7900	石敷排水溝 井戸屋形	8.3 ～14.5	2.0 以上		C＋J	1.7	礫	斎串4、土馬、横櫛6 土錘、和同開珎1 神功開寶1、隆平永寶1 曲物木簡「白物桶福徳」		25
2	内裏　北外郭 国 10次、11次、13次、20次	SE 2128	排水溝	1.65 ～1.8	0.4		C	1.1			平城Ⅶ	4
3		SE 751		1.3							平安初頭	
4	内裏　北外郭 国 13次	SE 2278								斎串1	平城Ⅴ	68
5	内裏　東外郭 国 19次	SE 2600					C	1.15		木偶1、人形2 斎串8	奈良後半	68
6	内裏北方官衛 国 129次	SE 9745	井戸屋形 SB9719	4.3 ～5.1	2.7					斎串、曲物底板		35
7	内裏東外郭官衛	SE 6845					C	1.35				註9
8		SE 715					C	1.2				
9	内裏東外郭官衛 南半	SE 4250			1.8		G	1.15			奈良末	
10	第1次大極殿 国 72次	SE 7145		3.2 ～3.5	2.5		抜			刀子		2
11	第1次内裏 国 117次	SE 9210		7～8	4.0		C			櫛1		33
12	第二次大極殿東外郭 国 35次	SE 4400	井戸屋形 SB4450		1.5		C	1.5				68
13	第1次東朝集殿 国 150次	SE 11170		2.4	1.2							37
14	第二次大極殿 国 152・153次	SE 11380										37
15	第一次朝堂院 国 157次	SE 11720										38
16	第二次朝堂院 国 161・163次	SE 11743					A				奈良時代初頭	38
17	宮内省大膳職	井戸 168A		3.0	2.0		C	2.1			奈良末	1
18	国 7次	井戸 168B		3.0	2.0		H	1.0				
19	〃	SE 272A		5～6	3.7		C		礫		奈良末	2
20		SE 272B		5～6	3.7		C	1.8			平安初頭	
21		SE 311A		7.0	4.0		C	2.2	礫	「坂部秋□」墨書 人形1　斎串1	奈良末	
22	国 8次	SE 311B		7.0	4.0		C	1.9		土馬2　人面墨書土器2 陽物1　隆平永寶1	平安初頭	
23	東部官衛地区	SE 3230	石敷 排水溝				C	2.0				註9
24	塼積官衛	SE 4886	石敷 井戸屋形				C	1.5				
25	塼積官衛北方	SE 2842	石敷 井戸屋形				L	1.0				
26	東院園池西南地区 国 120次	SE 12		4.1 ～6.7			C				平城Ⅲ	33
27	東院　南西地区 国 128次	SE 27A					C					34
28		SE 27B					C			和同開珎5 萬年通寶6 神功開寶12		

平城京井戸一覧表 1

No	遺跡名	遺構名	地上施設	井戸掘形			井戸枠					文献
				規模 m	深さ m	祭祀遺物	枠型	内法 m	濾過施設	祭祀遺物	時期	
29	西方官衛	SE 6166					C	1.35		斎串6		7
30	国 52次	SE 7110					X				奈良中～平安初頭	
31	西方官衛 国 37次	SE 5320					G+X	1.2			奈良後半	註9
32	造酒司	SE 3046	井戸屋形 排水溝				C	3.0～5.6		人形		
33		SE 3049	排水溝 井戸屋形				C	2.8				
34	国 22次	SE 2966	石敷き									
35	馬寮地域	SE 1627		2.2～4.5			抜					7
36		SE 1758		2.3	1.2		抜					
37		SE 1230		2.1	2.3		H+H	1.0		隼人の盾		
38	国 52次	SE 1247		1.9	1.0		G	1.0				
39	北辺地域 国 126次	SE 2163		2.5			C				奈良後半	13
40	北京極大路 国 103－16次	SE 19								斎串4 曲物4		31
41		SE 20								和同開珎2		
42	右京一条北辺四坊六坪 国 151－26次	SE 1025		2.3～2.7	2.5		抜					16
43	右京一条二坊十坪・十五坪 (西隆寺)	SE 010		5.7			C	1.36		人形 斎串3 土馬1	奈良末～平安初頭	24
44		SE 055		2.0	1.0		G					
45		SE 060		2.8			H	1.2		有孔土製円板		
46		SE 261		2.2	1.8		G	0.9				
47		SE 279		3.5			抜					
48		SE 075		2～3			抜					
49		SE 080	井戸屋形 SB 085	19～2.4	1.7		D	1.2		横櫛		
50		SE 090		1.7～2.1	2.5		抜				天平末	
51		SE 130		1.8～2.3	2		C	0.8				
52		SE 203					H	0.8				
53	右京一条二坊十五坪 国 209・210次	SE 370					G					43
55	右京一条三坊二坪 (西大寺)	SB 585					抜					44
56	国 208次	SB701					抜					
57	右京二条三坊一坪 市51次	SE 01		1.1～1.6	2.1		D+X	1.0	礫			51
58	右京二条二坊十六坪 市116次	SE 09		2.8			抜				奈良後半～末	55

平城京井戸一覧表 2

No	遺跡名	遺構名	地上施設	井戸掘形			井戸枠					文献
				規模 m	深さ m	祭祀遺物	枠型	内法 m	濾過施設	祭祀遺物	時期	
59	右京二条西三坊大路 国 151－17次	SE 1150					C＋H					37
60	右京二条三坊十二坪	SE 1235			1.4		抜					38
61	国 156－10次	SE 1227			1.4		抜				奈良末	
62	右京三条三坊一坪	SE 07		2.0	1.2		E	0.9			平城Ⅱ	58
63	市169、173、182	SE 08		2.0	1.1		G	－			平城Ⅴ	
66	184次	SE 09		2.5			抜	－				
67		SE 10		2.5～2.7	3.2		抜	－				
68		SE 11		1.2	1.45		抜	－			平城Ⅲ	
69		SE 12		1.2	1.0		抜	－				
70		SE 13		2.5～2.7	1.52		抜	－				
71		SE 14		3.0	1.0		抜	－			平城Ⅴ	
72		SE 15		3.0	3.5		抜	－				
73		SE 16		3.7	3.4		E	1.03			平城Ⅱ～Ⅴ	
74		SE 17		3.5	0.8		抜	－				
75	右京三条三坊五坪 市 183次	SE 03					E	0.8				58
76	右京三条三坊五坪 国 141－26次	SE 850		3			H				奈良後半	36
77	右京三条三坊五坪 国 162次	SE 1270					D					38
78	右京四条一坊十五坪 市 8次	SE 01		3	1.6		C	0.9			奈良前半	48
79	右京四坊二坊二坪 市 18次	SE 01		1.7			H	0.9				49
80		SE 02		3.5～4.4	2.7		E	1.3	木炭			
81	右京四条二坊二坪	SE 02		4.2～5.0	3.0		C	1.6	礫			57
82	市 158次	SE 03		2.1～2.4			H	0.8				
83	右京四条四坊十二・十三坪 市 129次	SE 01		3.75	2.8		C＋E＋C	1.0				56
84	右京五条一坊十五坪	SE 01		1.1～1.2			G＋X	0.65		斎串1	奈良中	56
85	市 127次	SE 02		2.3			G＋E	1.0		斎串7 墨書土器「人万呂・人万呂」	奈良末～平安初頭	
86	右京五条四坊三坪	SE 16	排水溝	2.1	3.0		C	0.8			奈良前半	30
87	国 100次	SE 20	排水溝 SX 20	3.2～5.1			L	1.1			奈良中	
88	薬師寺	SE 037		1.0	1.65		B	－		霊亀二年銘木簡	造営当初	45
89	右京六条三坊十坪 国 147次	井戸					H				8C中頃	33

平城京井戸一覧表 3

No	遺跡名	遺構名	地上施設	井戸掘形			井戸枠					文献
				規模 m	深さ m	祭祀遺物	枠型	内法 m	濾過施設	祭祀遺物	時期	
90	右京八条一坊十一・十二坪　郡山	SE 01		2.4 ～2.6	2.6		H＋C	0.6			奈良	65
91	右京八条一坊十一坪 国 149次	SE 930		3.6 ～4.0	3.5		G＋E	0.7		曲物 土師器杯蓋に呪符の墨書	平城Ⅲ	23
92	右京八条一坊十三・十四坪 国 168・179次	SE 1700		2.2	3.18		D＋J	0.8			平城Ⅲ	9
93		SE 1365		2.1 ～2.4	2.24		G	0.8	礫	横櫛	平城Ⅳ～Ⅴ	
94		SE 1867	井戸屋形 SB 1364	2.68 ～2.82	2.98		H＋H	0.7		銅鈴　銅製飾金具	平城Ⅰ～Ⅱ	
95		SE 1870		2.85 ～2.90	3.04		C＋H	0.6	礫	斎串5	平城Ⅱ	
96		SE 1917		2.24 ～2.62	2.1		縦				平城Ⅱ～Ⅲ	
97		SE 2019		2.5			抜	—				
98		SE 2070		1.98 ～2.42	2.53		F	0.6		鉄鏃　横櫛	平城Ⅲ	
99		SE 1880		2.0 ～2.4	1.6			0.7			平城Ⅰ～Ⅲ	
100		SE 1305		1.8 ～2.2	2.26		J	0.8	礫	下層 海獣葡萄鏡1 和同開珎2 神功開寶1 上層 斎串 曲物 横櫛	平城Ⅲ～Ⅴ	
101		SE 1315		2.0 ～2.7	2.5		H	0.75	木炭	斎串3　銅鈴 和同開珎 神功開宝	平城Ⅲ～Ⅴ	
102		SE 1335		2.25 ～2.6	0.82		H			斎串　曲物底板	平城Ⅲ～Ⅴ	
103		SE 1375		2.1 ～2.3			H＋C	0.66			平城Ⅴ	
104		SE 1385		2.8	1.91		H	0.96	礫	和同開珎1、神功開寶1 斎串　桃種	平城Ⅴ	
105		SE 1530		1.9	2.35		H＋H	0.7		斎串　桃種	平城Ⅲ～Ⅴ	
106		SE 1550		2.0 ～2.5	2.38		H＋C	0.9 0.6		上層　和同開珎 帯金具 下層　斎串　横櫛 桃種	平城Ⅴ	
107		SE 1555		2.35 ～2.65			H＋H	1.0 0.7		完形曲物、和同開珎8 萬年通寶1、神功開寶2 ガラス玉1、斎串 銅製人形　横櫛7	平城Ⅲ～Ⅴ	
108		SE 1560		3.2	2.23		H＋H	1.0			平城Ⅴ	
109		SE 1360		1.4	0.8		H	0.6			奈良末	
110		SE 2020		2.66 ～2.83			H	0.8		竪櫛 桧扇 曲物容器 桃種90		
111	右京八条二坊十坪 郡山	SE 01		2.4 ～3.0	4.0	分銅、刀子 鉄　斧 和同開珎2	C＋H	0.9		神功開寶4 萬年通寶3 飾金具	8C末	67
112	右京八条二坊十一坪（西市推定地）郡山	SE 01		2.8 ～4.8	1.7		H			上層 土馬 小型模造土器甑 中層 斎串2点	奈良	66
113	西市跡 国 123－23次	SE 393		2.5	2.9		D	0.85	礫			21
114		SE 394		1.9 ～2.3	2		H＋H	0.9		神功開寶1 横櫛2		

平城京井戸一覧表 4

No	遺跡名	遺構名	地上施設	井戸掘形			井戸枠					文献
				規模 m	深さ m	祭祀遺物	枠型	内法 m	濾過施設	祭祀遺物	時期	
115	西市跡 国 123－23次	SE 395		1.2	2.0		H	0.6		上層　土馬2	平城 Ⅱ Ⅲ	21
116		SE 407		1.9 ～2.0		ミニチュア小壺	G			和同開珎1	奈良 末	
117	右京九条一坊 国 125次	SE 18		3.0	3.0		抜	－			平城 Ⅱ	11
118	左京一条二坊 国	SE 464		1.6 ～1.95	0.6		抜	－				3
119		SE 525		3.3 ～3.5	0.6		抜	－				
120		SE 535		1.2	0.25		不明	－				
121		SE 545		1.0 ～1.2	0.25		X			和同開珎		
122		SE 495	3m 方の石敷	1.8	3.5		H					
123	左京一条三坊十三・十四坪　市 82次	SE 02		1.5	2.5		A	－				52
124	左京二条五坊北郊 国	角井戸										22
125		丸井戸										
126	左京二条五坊北郊 市 46次	SE 05		1.4	1.1		L	1.1			平安 初頭	51
128	左京二条五坊北郊 県	SE 03		3.3 ～4.5			C	1.47		上層　鋼鈴 下層　須恵器杯B「床滑家主」土師器杯「天・今日・道」の墨書		64
129		SE 04					抜					
130	左京二条二坊五坪 市 156次	SE 07					抜					56
131	左京二条二坊五坪 国 202－9次	SE 5355					E＋L	1.3			平城 V	43
132	左京二条二坊十二坪 市 28次	SE 31		2.2 ～2.5	1.6		抜	－		斎串2	奈良 前半	59
133		SE 32		1.2	1.6		A	－		斎串1	奈良 前半	
134		SE 33		4.4 ～5.5	1.76		抜	－				
135		SE 34		4.5			抜	－				
136		SE 35		3.45 ～3.0	1.75		G	1.2		斎串2		
137		SE 36		1.7	0.9		A	－				
138	左京二条二坊十三坪 国 151－11次	SE 237		1.5	1.6		抜	－			平城 Ⅱ	14
139	左京二条二坊十四坪 国 189次	SE 40	瓦敷	2.4	2.8		L	1.2	木炭 萬年通寶1 ガラス玉	斎串21	奈良 末	41
140	左京二条三坊六坪 国 164－12次	SE 01					不明				奈良 後半	39
141	左京二条三坊六坪 国 156－22次	SE 09					抜				奈良 末	38
142	左京二条四坊二坪 市 157次	SE 30		4.6 ～5.0	2.6		抜	－	木炭		奈良 前半	57
143		SE 31		1.6 ～1.7	1.7		G	0.7			奈良 前半	

平城京井戸一覧表 5

No	遺跡名	遺構名	地上施設	井戸掘形			井戸枠					文献
				規模 m	深さ m	祭祀遺物	枠型	内法 m	濾過施設	祭祀遺物	時期	
144	左京二条四坊二坪 市 157次	SE 32		1.8	1.9		H	0.8			奈良中	57
145		SE 33		1.8 ~2.0			X	0.3 ~0.4			奈良後半	
146		SE 34		1.0 ~1.2	1.0		X	0.6 ~0.3	礫	斎串3	奈良後半	
147		SE 35		13.2 ~1.6	2.35		G	0.6			奈良後半	
148		SE 36		1.7 ~2.6	1.93		G+G	0.8 0.4				
149		SE 37		1.7 ~1.8	1.3		X	0.5				
150		SE 38		2.6 ~2.8	1.6		縦+X	0.6 0.3	礫 湧水施設			
151	左京二条四坊七坪 市 174次	SE 22		2.4 ~2.7			F	1.2			奈良中	58
152		SE 23		2.1 ~2.9			G+G	1.0	礫	斎串4	奈良後半	
153		SE 24		1.8 ~1.95	2.3		G	0.7			平城V～VI	
154	左京二条四坊十一坪 市 180次	SE 07		2.1 ~2.96	2.26		C	0.75			不明	58
156		SE 53		3.2	1.8		G	0.85		斎串2	平城VI	
157		SE 54		1.26 ~1.47	1.85		抜	—		斎串1	不明	
158		SE 55		2.4 ~2.55	2.0		G	0.92			平城VI	
159		SE 56		2.35 ~2.9	2.17		抜	—		斎串	平城IV	
160		SE 57		2.45 ~2.9	2.55		G	1.15		斎串	平城VI	
161		SE 58		2.5 ~3.13	1.9		D	1.00				
162		SE 59		1.36 ~1.9	1.0		X	0.57				
163	左京二条四坊九坪 国 131－16次	SE 19		2.0	1.2		G+X					35
164	左京三条一坊十五坪 市 94次	SE 05		3.5	2.1		抜	—				53
165		SE 06		2.8			抜	—				
166	左京三条二坊三坪 国 151－32次	SE 2965		1.3 ~1.5	1.7		G				平城V	12
167		SE 2988		1.2 ~1.5	1.2		H				平城III	
168	左京三条二坊三・四坪 国 174－10次	SE 3930					抜	—				40
169	左京三条二坊 一・二・七・八坪 (長屋王邸) ※遺構番号は仮番号 国 178次 184次 186次 190次 193次 195次 197次 200次	SE 068		3.6 ~3.8	2.7		H+X	1.0			奈良後半	41
170		SE 110		1.65 ~1.7	1.64		G+X	0.6			奈良後半	
171		SE 116		2.0	1.76		G	0.85		斎串 素文鏡	奈良末	
172		SE 117		2.74 ~2.97	1.91		C	1.1			725年頃	
173		SE 126		1.25 ~1.5	1.4		H	0.72			奈良末	

平城京井戸一覧表 6

No	遺跡名	遺構名	地上施設	井戸掘形			井戸枠					文献
				規模 m	深さ m	祭祀遺物	枠型	内法 m	濾過施設	祭祀遺物	時期	
174	左京三条二坊一・二七・八坪 (長屋王邸)	SE 130		1.53 ~1.7	1.55		縦+X	0.6				41
175	国 178次 184次	SE 163		1.52	1.52		L+X	0.59			奈良末	
176	186次 190次	SE 164		2.32	1.79		抜	—				
177	193次 195次 197次	SE 180		1.9 ~2.3	2.0		抜	—			725年頃	
178	200次	SE 211		5.1 ~5.2	3.52		C	1.3		斎串 一頭分の馬骨 萬年通寶3 神功開寶12 和同開珎23	平安初頭	
179	左京三条二坊六坪	SE 1610		1.5	0.6		抜	—				69
180	(宮跡庭園)	SE 1547	石敷	3.5 ~4.5	3.0		抜	—				
181	国 96次 109次	SE 1611		2.0	0.5		抜	—				
182	121次	SE 1511		2.6	1.7		抜	—				
183	左京三条二坊十坪 市 187次	SE 16		3.0	2.15		抜	—		「井」の墨書土器		58
184	左京三条二坊十三坪 国 83・86次	SE 967		3.6	1.4		C			斎串10 陽物1		8
185		SE 968		2.0			抜	—				
186		SE 978		1.4	1.1		G					
187		SE 979		3.5 ~4.0	1.2		D+G			富寿神宝1、ガラス玉1		
188		SE 877		2.3			C			斎串8		
189		SE 991		1.9 ~2.2	2.9		G					
190	左京三条四坊一坪 市 113次	SE 05		1.6 ~2.0	1.65		H+X	0.8 0.8	礫	斎串8 神功開寶1	奈良後半	55
191	左京三条四坊七坪 国 131−30次	SE 1898		2.0 ~3.3	0.9		H					35
192		SE 1801		3.2 ~3.9	0.6		C			斎串1		
193	左京三条四坊六坪 市 63次	SE 11		2.8	2.5		C+F	0.65			奈良末	51
194	左京三条四坊九坪 市 102次	SE 19		3.4	1.5		G	0.8				54
195		SE 20		3.3	1.55		G	1.05		銅鈴1		
196	左京三条四坊十二坪 県	SE 29		2.6 ~2.9	2.5		G	0.8			平城Ⅳ～Ⅴ	63
198		SE 30		1.3 ~1.5	1.7		X	0.6		銅鏡	平城Ⅲ～Ⅵ	
199	左京四条二坊一坪 国 151−1次	SE 2600		1.5	1.0	串	I	1.6			奈良末	17
200	左京四条二坊七坪 市 42・59次	SE 12		3.4	1.5		抜	—			8C前半～中頃	51
201		SE 13		1.0 ~1.3	1.1		X 2段	0.54 0.36			8C末	
202		SE 14		1.4 ~1.5	1.7		H+X	0.58			8C末	
203		SE 15		2.4	1.5		X	—			8C末	

平城京井戸一覧表 7

No	遺跡名	遺構名	地上施設	井戸掘形			井戸枠					文献
				規模 m	深さ m	祭祀遺物	枠型	内法 m	濾過施設	祭祀遺物	時期	
204	左京四条二坊七坪 市 42・59次	SE 16		2.4	1.2		X	0.6			8C 末	51
205	左京四条二坊七坪 市 80次	SE 10		2.2	1.63		抜	—			8C 後半	52
206	左京四条二坊十五坪 国 123－30次	SE 034		3.0 ～3.2	2.0		抜	—				34
207	左京四条四坊十四坪 市 164次	SE 11		1.25	1.5		H＋X	0.6 0.6	礫			57
208	左京四条四坊十四坪 市 168次	SE 28		2.7 ～4.2	1.7		C	0.85			8C 末	57
209		SE 29		2.4 ～2.6	1.65		縦＋D	1.1			8C中 ～末	
210		SE 30		3.1	1.9		L	0.7				
211	左京四条五坊四坪 市 88次	SE 12		1.7 ～1.8	2.1		E＋F	0.5		土馬	奈良 末 平安初頭	52
212	左京四条六坊十四坪 市 11次	SE 04		2.4	2.1		抜	—			平城 Ⅲ	4
213	左京五条一坊一八坪 市 65次	SE 45		3.6	1.7		C	1.4				52
214		SE 46		2.4			X			斎串		
215		SE 47		3.0			抜	—				
216	左京五一坊四・五坪 国 90次	SE 1122					C					28
217		SE 1081					縦＋X					
218		SE 1093					抜					
219		SE 1095					X					
220	左京五条一坊七坪 市 24次	SE 02		2.0	2.5		抜	—				49
221	左京五条二坊十四坪 市 2次	SE 01		1.9	1.2		抜	—			8C 前半	47
222		SE 02		1.8	0.95		X	0.37 ～0.69			8C 中	
223		SE 03		3.3	1.3		C＋G	1.2		ガラス玉　桃種 斎串23　つるべ	8C 末	
224	左京五条五坊七坪 市 9次	SE 27		2.0	1.1		H	0.8			奈良 後半	60
225		SE 28		1.8	0.95		抜	—				
226		SE 29		1.1 ～1.4	1.0		X	0.52			奈良 末	
227		SE 30		1.5 ～1.9	1.4		G	0.78			奈良 中	
228		SE 31		0.9 ～1.1	1.2		C＋X	0.54			奈良 後半	
229		SE 32		1.8 ～2.0	1.7		J	0.82			奈良 末	
230	左京五条五坊十坪 市 148次	SE 20		2.0 ～2.1	1.5		G	0.95			8C中 ～後半	57
231	大安寺 6BDA－22	SE 01		1.7	1.5		G	0.8		斎串1 須恵器壺H 「大二三井」の墨書土器5		53
232	左京七条一坊九坪 市 128次	SE 01		3.6 ～4.1	1.5		G	0.7		斎串13点　銅鈴		56

平城京井戸一覧表 8

No	遺跡名	遺構名	地上施設	井戸掘形			井戸枠					文献
				規模 m	深さ m	祭祀遺物	枠型	内法 m	濾過施設	祭祀遺物	時期	
233	左京七条二坊六坪	SE 09		2.8	2.05		抜	—			平城Ⅲ	53
234	市 93次	SE 10		2.0	2.5		G	0.9		斎串　須恵器壺H 製塩土器	平城Ⅴ	
236	左京八条一坊三・六坪　国 160次	SE 3260		2.2	2.2	串	D		網代 斎串1	土師器壺A「上・田」墨書 櫛		18
237	左京八条二坊一坪	SE 01		4.0			H	0.7			奈良後半～末	51
238	市 134次	SE 02		2.8	2.95		H+J	1.6 1.5	礫		奈良後半～末	
239	左京八条二坊四坪 市 14次	SE 16		3.4	1.4		縦+E	1.2		斎串2 隅桂に「富女」の線刻	奈良末～平安初頭	49
240	東市推定地 市 6ATI-6次	SE 147		2.2 ～2.4	1.5		抜	—			奈良中	61
241		SE 148		1.8 ～2.2	2.4		F	0.75			奈良中	
242		SE 149		2.0 ～2.5	2.2		H+X	0.75			奈良後半	
243	東市推定地 市 6ATI-7次	SE 162		1.05 ～1.2	0.58		抜	—			奈良後半	62
244		SE 163		0.95 ～1.1	0.45		抜	—			奈良後半	
245	左京八条三坊十坪 国 93・94次	SE 1260					X	0.6	礫			15
246		SE 1230			1.6		H	0.9				
248		SE 1180			1.8		D	0.9				
249		SE 1195		3.0	3.5		縦	—				
250		SE 1350			3.5		縦	—		斎串3		
251		SE 1355			3.3		抜	—				
252		SE 1360			2.4		抜	—				
253		SE 1392		1.1			X					
254		SE 1354			3.3		抜	—				
256	左京九条一坊三・六坪　市 106次	SE 10		1.6 ～1.8	2.4		H				奈良中～後半	55
257	左京九条一坊二・三坪　市 167次	SE 06		2.3 ～2.4	2.2		G	1.06		分銅	奈良中～平安初頭	57
258	左京九条一坊 前川遺跡	井戸1					G	0.8				46
259		井戸2					G	0.8		土馬2　人面墨画土器1 小型模造土器甕1 須恵器壺H		
260	左京九条三坊十坪 国　166次	SE 3615					C			土馬1 小型模造土器壺1甑1	平城Ⅱ	20
261		SE 3765					H				平城Ⅴ	
262		SE 3755					H			斎串3　土馬1		
263		SE 3720					G+X				平城Ⅵ	

平城京井戸一覧表 9

平城京調査報告文献一覧

1　奈良国立文化財研究所　学報15冊『平城宮発掘調査報告Ⅱ』　昭和37年３月
2　奈良国立文化財研究所　学報17冊『平城宮発掘調査報告Ⅳ』　昭和40年３月
3　奈良国立文化財研究所　学報23冊『平城宮発掘調査報告Ⅵ』　昭和49年３月
4　奈良国立文化財研究所　学報26冊『平城宮発掘調査報告Ⅶ』　昭和50年３月
5　奈良国立文化財研究所　学報34冊『平城宮発掘調査報告Ⅸ』　昭和52年３月
6　奈良国立文化財研究所　学報40冊『平城宮発掘調査報告Ⅺ』　昭和56年３月
7　奈良国立文化財研究所　学報42冊『平城宮発掘調査報告Ⅻ』　1985年３月
8　奈良国立文化財研究所　学報25冊『平城京左京三条二坊』　昭和50年３月
9　奈良国立文化財研究所　学報46冊『平城京右京八条一坊十三・十四坪発掘調査報告』1989年３月
10　奈良国立文化財研究所編　『平城京右京五条四坊三坪発掘調査報告』　1977年３月
11　奈良国立文化財研究所編　『平城京九条大路県道城廻り線予定地発掘調査概報Ⅰ』　1981年３年
12　奈良国立文化財研究所編　『平城京左京三条二坊三坪発掘調査報告書』　1984年６月
13　奈良国立文化財研究所編　『平城宮北辺地域発掘調査報告』　昭和56年３月
14　奈良国立文化財研究所編　『平城京左京二条二坊十三坪の発掘調査』　1984年３月
15　奈良国立文化財研究所編　『平城京左京八条三坊東市東北地域の調査発掘調査概報』　昭和51年３月
16　奈良国立文化財研究所編　『平城京右京一条北辺四坊六坪発掘調査報告』　1984年３月
17　奈良国立文化財研究所編　『平城京左京四条二坊一坪発掘調査報告』　昭和59年３月
18　奈良国立文化財研究所編　『平城京右京八条一坊三・六坪発掘調査報告書』　1985年３月
19　奈良国立文化財研究所編　『平城京左京四条二坊十五坪発掘調査報告』　1985年３月
20　奈良国立文化財研究所編　『平城京左京九条三坊十坪発掘調査報告』　1986年３月
21　奈良国立文化財研究所編　『平城京西市跡　右京八条二坊十二坪の発掘調査』　1982年３月
22　奈良国立文化財研究所編　公立学校共済組合『平城京右京二条五坊北効の調査』昭和45年３月
23　奈良国立文化財研究所編　『平城京右京八条一坊十一坪発掘調査報告』1984　年３月
24　西隆寺調査委員会　『西隆寺発掘調査報告』　1976年３月
25　奈良国立文化財研究所　『昭和48年度　平城宮跡発掘調査部発掘調査概報』　昭和49年２月
28　奈良国立文化財研究所　『昭和49年度　平城宮跡発掘調査部発掘調査概報』　昭和50年４月
29　奈良国立文化財研究所　『昭和50年度　平城宮跡発掘調査部発掘調査概報』　昭和51年５月
30　奈良国立文化財研究所　『平城宮跡発掘調査部発掘調査概報　昭和51年度』　昭和52年５月
31　奈良国立文化財研究所　『平城宮跡発掘調査部発掘調査概報　昭和52年度』　昭和53年４月
32　奈良国立文化財研究所　『平城宮跡発掘調査部発掘調査概報　昭和53年度』　昭和54年４月
33　奈良国立文化財研究所　『昭和54年度　平城宮跡発掘調査部発掘調査概報』　昭和55年４月
34　奈良国立文化財研究所　『平城宮跡発掘調査部発掘調査概報　昭和55年度』　昭和56年４月
35　奈良国立文化財研究所　『平城宮跡発掘調査部発掘調査概報　昭和56年度』　昭和57年５月

36　奈良国立文化財研究所　『昭和57年度　平城宮跡発掘調査部発掘調査概報』　昭和58年５月
37　奈良国立文化財研究所　『昭和58年度　平城宮跡発掘調査部発掘調査概報』　1984年５月
38　奈良国立文化財研究所　『平城宮跡発掘調査部発掘調査概報　昭和59年度』　昭和60年６月
39　奈良国立文化財研究所　『平城宮跡発掘調査部発掘調査概報　昭和60年度』　昭和61年４月
40　奈良国立文化財研究所　『昭和61年度　平城宮跡発掘調査部発掘調査概報』1987年６月
41　奈良国立文化財研究所　『平城宮跡発掘調査部発掘調査概報　昭和62年度』1988年６月
42　奈良国立文化財研究所　『平城宮跡発掘調査部発掘調査概報　昭和63年度』1989年６月
43　奈良国立文化財研究所　『1989年度　平城宮跡発掘調査部発掘調査概報』　1990年６月
44　奈良国立文化財研究所編　『西大寺防災施設工事発掘調査報告書』　平成２年３月
45　奈良国立文化財研究所編　『薬師寺発掘調査報告』　昭和62年３月
46　奈良国立文化財研究所編　『朱雀大路発掘調査報告』　1974年３月
47　奈良市教育委員会　『奈良市埋蔵文化財調査報告書　昭和54年度』　昭和55年３月
48　奈良市教育委員会　『奈良市埋蔵文化財調査報告書　昭和55年度』　昭和56年３月
49　奈良市教育委員会　『奈良市埋蔵文化財調査報告書　昭和56年度』　昭和57年３月
50　奈良市教育委員会　『奈良市埋蔵文化財調査報告書　昭和57年度』　昭和58年３月
51　奈良市教育委員会　『奈良市埋蔵文化財調査報告書　昭和58年度』　昭和59年３月
52　奈良市教育委員会　『奈良市埋蔵文化財調査報告書　昭和59年度』　昭和60年３月
53　奈良市教育委員会　『奈良市埋蔵文化財調査報告書　昭和60年度』　昭和61年３月
54　奈良市教育委員会　『奈良市埋蔵文化財調査概要報告書　昭和60年度』　昭和61年３月
55　奈良市教育委員会　『奈良市埋蔵文化財調査概要報告書　昭和61年度』　昭和62年３月
56　奈良市教育委員会　『奈良市埋蔵文化財調査概要報告書　昭和62年度』　昭和63年３月
57　奈良市教育委員会　『奈良市埋蔵文化財調査概要報告書　昭和63年度』　平成元年３月
58　奈良市教育委員会　『奈良市埋蔵文化財調査概要報告書　平成元年度』　平成２年３月
59　奈良市教育委員会『平城京左京二条二坊十二坪 奈良市水道局庁舎建設地発掘調査概要報告』昭和59年３月
60　奈良市教育委員会　『平城京左京五条五坊七・十坪発掘調査報告』　昭和56年３月
61　奈良市教育委員会　『平城京東市推定地の調査　Ⅳ』　昭和61年３月
62　奈良市教育委員会　『平城京東市推定地の調査　Ⅴ』　昭和62年３月
63　奈良県教育委員会　第52集　『平城京左京三条三条四坊十二坪発掘調査報告』　1987年
64　奈良県教育委員会　『1985年　奈良県遺跡調査概報』　1987年
65　大和郡山市教育委員会　『平城京右京八条一坊十一・十二坪発掘調査概要報告書』　1989年３月
66　大和郡山市教育委員会　『平城京右京八条一坊十一坪西市跡推定地発掘調査概要報告書』1990年３月
67　大和郡山市教育委員会　『平城京右京八条一坊十坪発掘調査概報』　1990年12月
68　奈良国立文化財研究所編　『奈良国立文化財年報 1958～1969』同朋舎　1985年
69　奈良国立文化財研究所編　『平城京左京三条二坊六坪発掘調査報告』　1986年

奈良市埋蔵文化財調査センター紀要

1990

平成３年３月16日　印刷
平成３年３月20日　発行

発行　奈良市教育委員会
奈良市二条大路南１丁目１番１号

印刷　実業印刷株式会社
奈良市東九条町６－４